

科目名称：	会計実務演習Ⅲ	
担当者名：	眞田 浩一	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
日本商工会議所の簿記検定試験3級合格レベルの理解を得た学生のみなさんに次なるステップとして、日本商工会議所の簿記検定試験2級(商業簿記)合格レベルの授業を行います。3級と比較するとボリュームは多く、近年は検定試験の難易度が高くなっていますので理解力を要しますが、検定合格を目標に授業を進めます。また、簿記検定のみならず経理実務より経験した経理業界の現状等も踏まえ将来各分野に広く応用できるような内容にしたいと考えています。		
授業の達成目標・到達目標		
日本商工会議所の簿記検定試験2級商業簿記合格レベルを目標とします。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)	60	20	20		100
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 税理士	《経験年数1》 19年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 基礎1 (簿記一巡の手続き)	事後学修 トレーニング 問題0-1	60分
第2回 基礎2 (損益計算書と貸借対照表) (授業内でディスカッションをしながら演習を進める)	事後学修 トレーニング 問題1-1~1-3	60分
第3回 商品売買1 (各種取引方法)	事後学修 トレーニング 問題2-1~2-3	60分
第4回 商品売買2 (期末評価) (授業内でディスカッションをしながら演習を進める)	事後学修 トレーニング 問題2-4~2-6	60分
第5回 現金及び預金1 (現金、当座預金調整)	事後学修 トレーニング 問題3-1~3-3	60分
第6回 現金及び預金2 (銀行勘定調整表) (授業内でディスカッションをしながら演習を進める)	事後学修 トレーニング 問題3-4~3-5	60分
第7回 債権債務	事後学修 トレーニング 問題4-1~4-9	90分
第8回 有価証券1 (株式)	事後学修 トレーニング 問題5-1~5-6	60分
第9回 有価証券2 (公社債、期末評価)	事後学修 トレーニング 問題5-7~5-11	60分
第10回 有形固定資産I (購入・売却・減価償却)	事後学修 トレーニング 問題6-1~6-4	60分
第11回 有形固定資産II-1 (利息・建設仮勘定・資本的支出・除却・廃棄)	事後学修 トレーニング 問題7-1~7-4	60分
第12回 有形固定資産II-2 (買換・保険金・圧縮記帳)	事後学修 トレーニング 問題7-5~7-8	60分
第13回 有形固定資産II-3 (総合問題) (授業内でディスカッションをしながら演習を進める)	事後学修 トレーニング 問題7-9、過去問	90分
第14回 リース取引1	事後学修 トレーニング 問題8-1~8-5	60分
第15回 リース取引1、無形固定資産と研究開発費	事後学修 トレーニング 問題8-6 ~8-7、問題9-1~9-3	60分
第16回 引当金	事後学修 トレーニング 問題10-1~10-12	90分
第17回 外貨換算会計	事後学修 トレーニング 問題11-1~11-6	60分
第18回 税金・株式の発行	事後学修 トレーニング 問題12-1 ~12-3、問題13-1~13-2	60分
第19回 株式の発行・剰余金の配当と処分	事後学修 トレーニング 問題13-3 ~13-4 問題14-1~4	60分
第20回 剰余金の配当と処分・決算手続1 (精算表)	事後学修 トレーニング 問題14-5、問題15-1	90分

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第21回 決算手続2(精算表)	事後学修 トレーニング 問題15-2~15-4	120分
第22回 決算手続3(財務諸表)	事後学修 トレーニング 問題15-7~15-8	90分
第23回 決算手続4(財務諸表)	事後学修 トレーニング 問題15-9~15-10	90分
第24回 収益費用の認識基準・合併と事業譲渡	事後学修 トレーニング 問題16-1 ~16-4 問題19-1~19-2	60分
第25回 課税所得の算定・税効果会計・本支店会計	事後学修 トレーニング 問題17-1 ~17-6 問題18-1~18-3	60分
第26回 連結会計Ⅰ・Ⅱ(資本連結Ⅰ・Ⅱ)	事後学修 トレーニング 問題20-1 ~20-4 問題21-1~21-3	90分
第27回 連結会計Ⅱ(資本連結Ⅱ)	事後学修 トレーニング 問題21-4~21-8	90分
第28回 連結会計Ⅲ(成果連結)1	事後学修 トレーニング 問題22-1~22-5	90分
第29回 連結会計Ⅲ(成果連結)2	事後学修 トレーニング 問題22-6~22-9	90分
第30回 製造業会計・決算手続(繰越試算表等)(授業内で ディスカッションをしながら演習を進める)	事後学修 トレーニング 問題23-1 問題15-6~15-7	90分
<p>事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。</p> <p>また、事前事後学修としては当日の学修範囲について問題集による事後学修が必要であるが、当日だけの復習ではなく毎日30~60分程度の復習を続けることが簿記を理解するためには必要である。</p>		
成績評価の方法・基準		
<p>定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。</p> <p>授業中の提出物・小テスト 40%</p>		
課題に対するフィードバック		
<p>次回までの小テストは評価し返却する。また、定期試験は成績確定後、希望者には事務局を通して返却する。</p>		
教科書・参考書		
<p>教科書： よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記2級商業簿記  問題集： よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記2級商業簿記  参考書： なし</p>		